



マダラ（北海道日本海）①

マダラは北日本に広く分布し、本評価群はこのうち北海道日本海からサハリン西岸にかけての沿岸および陸棚斜面域に分布する群である。本資源の漁獲量等は漁期年（4月～翌年3月）の数値を示す。



図1 分布域

沿岸および陸棚斜面域に分布する。産卵場は分布域全体に散在すると考えられている。

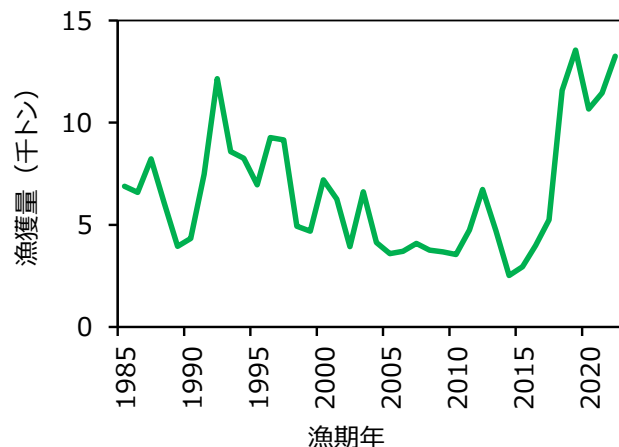


図2 漁獲量の推移

1992年漁期の12.2千トンをピークに減少し、2014年漁期に過去最低の2.5千トンとなった。その後は急増し、2022年漁期は13.2千トンであった。

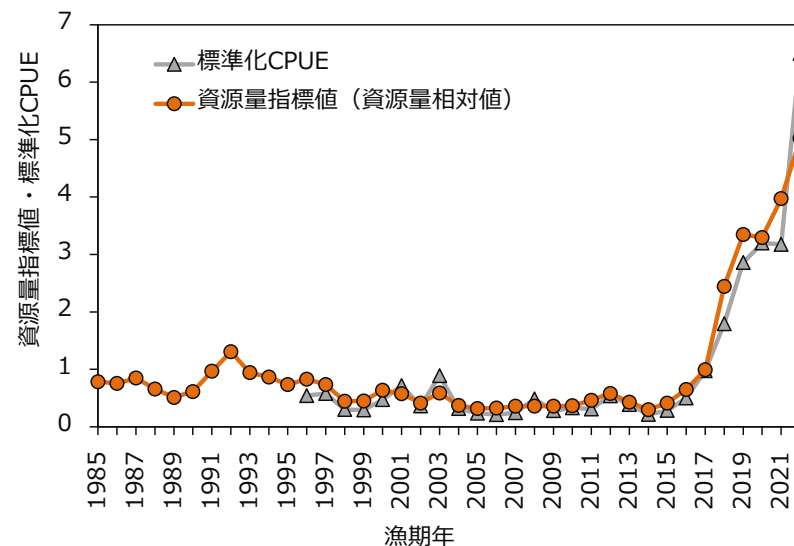


図3 資源量指標値の推移

主要漁業である沖合底びき網かけまわし漁法の単位努力量あたりの漁獲量を標準化した値（標準化CPUE）と漁獲量を元に、余剰生産モデルにより資源量相対値（4モデルの平均）を推定し、資源量指標値として用いた。

資源量指標値は2014年漁期に過去最低水準まで減少した後に急増し、2022年漁期には過去最高の5.023となった。

マダラ（北海道日本海）②

本評価群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって「令和5（2023）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

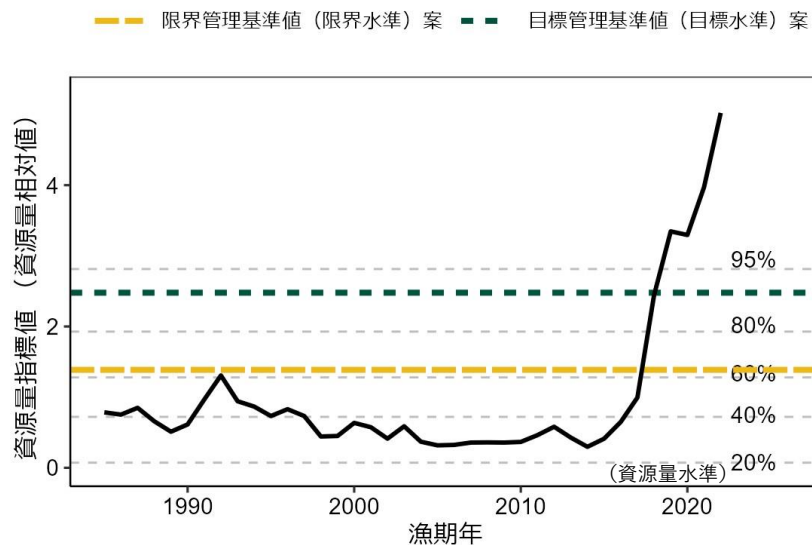


図4 資源量水準および管理基準値案

本資源では、近年生産力の大幅な上昇が起きた可能性が考えられる。生産力が過去の水準まで戻った場合に管理に失敗することを防ぐため、シミュレーションに基づき目標管理基準値（緑線）を91%水準、限界管理基準値（黄線）を63.7%水準とすることを提案する。

2022年漁期の資源量指標値（5.023）は100%水準に相当し、目標管理基準値案および限界管理基準値案を上回る。

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。

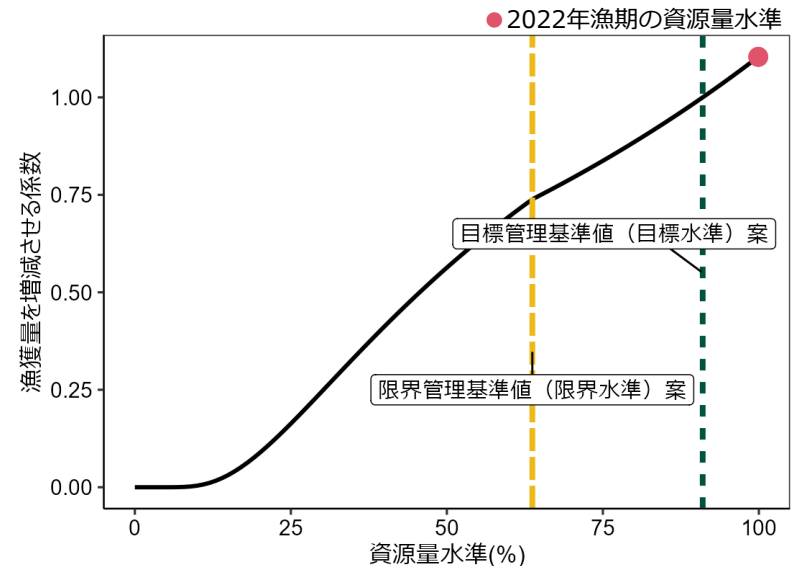


図5 漁獲管理規則案

資源量水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を提案する。資源量水準が目標管理基準値案（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2022年漁期）の資源量水準（100%）における漁獲量を増減させる係数（赤丸）は1.105である。

マダラ（北海道日本海）③

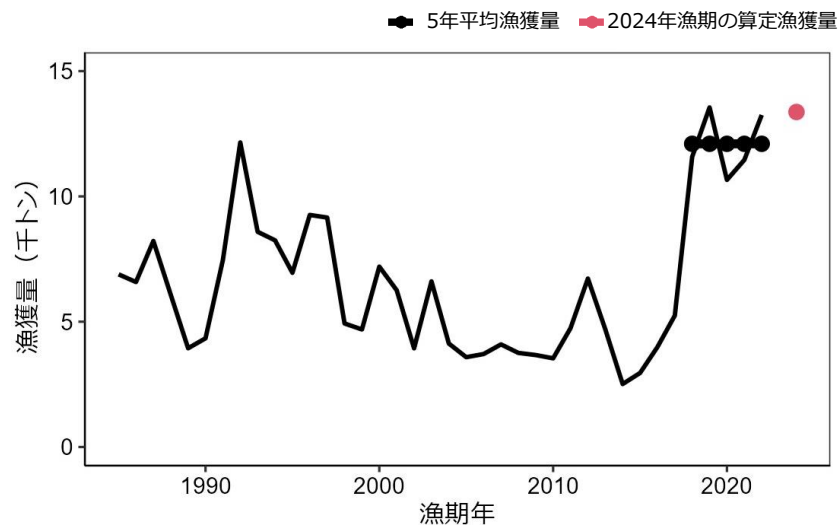


図6 漁獲量の推移と2024年漁期の算定漁獲量

直近5年間（2018～2022年漁期）の平均漁獲量（黒丸、12,099トン）に2022年漁期の資源量水準から求めた漁獲量を増減させる係数（1.105）を乗じて算出される2024年漁期の算定漁獲量は13.4千トン（赤丸）となる。

	資源量水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値
目標管理基準値（目標水準）案	91.0%	1.000	2.48
限界管理基準値（限界水準）案	63.7%	0.739	1.39
現状の値（2022年漁期）	100.0%	1.105	5.023

資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。

2022年漁期の資源量水準は100%であることから、2024年漁期の算定漁獲量は13.4千トンと算出される。